貧困から子どもを守る対策を

適切な相談体制と制度の活用

照井　明子 議員
（無会派）

Q 低所得者層が広がっているが、子どもの貧困に対する市の認識と解消の取り組みについて伺う。併せて所得の減少に対する保育料減免について、就学援助や奨学金の拡充について伺う。

A（保健福祉部長・教育長） 経済不況と雇用状勢の悪化から低所得世帯や母子家庭等の子どもを取り巻く環境が厳しくなっている。そこで、児童扶養手当や貸付金の活用、生活保護制度の適切な運用と要保護者への適切な相談指導に努めている。保育料については、要領に基づき、所得が大きく減少した場合、所得減少の割合に応じた減免を行っている。就学援助と奨学金については、拡充は考えておらず、当面は現行制度のまま運営していく。

35人学級の対応は

Q 21年度、中学校1年生に35人学級が試行されるが市の対応を伺う。

A（教育長） 対象となる3校に35人学級実施の検討をしていただいた。その結果、3校の内、1校が実施し、残り2校では、これまで実施してきた少人数指導を継続することとなった。

本年4月から、石鳥谷中学校1学年では35人学級を実施しています

患者と家族の足の確保のため、1日3回、大迫地域診療センターと遠野病院との間で送迎タクシーが運行されています

市民の雇用相談の内容と対処

再就職が大半、不安解消に努力

櫻井　肇 議員
（無会派）

Q かつてない雇用危機が市民の暮らしに大きな不安の影を落としている。その中、市では相談活動を展開しているが、市民からの雇用相談の内容と対処について伺う。

A（市長） 市では年明け以降、緊急経済・雇用対策室を設置し、相談体制の確保に努めている。相談内容としては、再就職の相談が大半を占めているが、納税、住宅、生活資金など市民生活全般におよんでいる。対処については、「庁内全体による一元的な対応」を原則として、ワンストップによる対応に努めるほか、継続した支援が必要な場合には、その後のフォローアップを行うなど相談者の不安解消に努める。

無床化に市民の声を

Q 県立大迫地域診療センター無床化反対は市民の意思である。県および医療局の決定に市民の抗議の声を届けるべきと考えるがどうか。

A（保健福祉部長） 大迫は地理的に医療をなくすることはできない地域であることから、医療確保に向け努力していかなければならないと考えており、県議会の動向を注視していく。

議会運営委員会

視察日：平成２１年１月２１日～２３日

視察先：三重県伊賀市

奈良県天理市

市内９カ所で開催している市民との懇談会について説明を受けました（天理市）

議会基本条例で逆質問権を規定 ～三重県伊賀市～

伊賀市は、人口10万1000人、議員定数34人で、平成16年11月に1市3町2村が合併し誕生しました。

平成19年2月に「議会の役割と責務」を具体化する伊賀市議会基本条例を制定し、全国の市町村議会では初となる「行政の議員に対する反問権付与」（逆質問権）を規定するなど、注目を集めています。また、小学校区単位に38地域を廻って議会報告会を開催するなど、開かれた議会を目指し取り組んでいました。

市内9カ所で市民との懇談会を開催 ～奈良県天理市～

天理市では、平成19年6月に議会改革に取り組むための任意の検討委員会を設置し、その後、平成20年3月に特別委員会に移行しました。そして、校区別に9地域で議員が7人ずつ3グループに分かれて市民との懇談会を開催し、議員定数や議員報酬、政務調査費、議会改革（議会基本条例）について市民の意見を聞くなど、市民との対話に力を入れ、議会改革を進めていました。

花巻市議会においても、一般質問の一問一答方式や、本会議および予算・決算特別委員会のインターネット中継など議会改革に取り組んできましたが、さらに市民に分かりやすい開かれた議会を目指していかなければならないと感じました。

（委員長　川村伸浩）

市議会だより編集委員会

視察日：平成２１年２月９日～１０日

視察先：愛知県日進（にっしん）市

愛知県弥富（やとみ）市

編集体制や編集方法について、また、注意している点や課題等について説明を受けました（弥富市）

議案に対する議員の賛否を掲載 ～愛知県日進市～

日進市では、議会広報の企画から編集、掲載写真の撮影や原稿の執筆校正作業など、全てを8名の委員が行っており、議会事務局は委員会の記録や文書の保管、印刷業者への連絡などに携わっていました。

内容としては、各常任・特別委員会の審査内容を毎号掲載していることや、議案審議について、議案の可否はもちろん議員全員の賛否も掲載していました。

議会事務局主導の編集体制 ～愛知県弥富市～

弥富市では、日進市とはまったく逆に事務局主導で作成しており、委員会はゲラを校閲するだけで、編集委員も正副議長、正副議会運営委員長、各常任委員長で構成されていました。

また、表現の硬さやレイアウトの不自由さなどが見受けられました。

日進市と弥富市、いわば両極の編集体制でしたが、すべての作業を編集委員が行うのは委員の負担が大きく、逆にまったくの事務局主導では議員の主体性が無くなることから、本市のような共同編集がよいのではないかと改めて感じました。

一方で委員会活動や議案審議の議員の賛否掲載など情報公開を進めていることについては、参考になることも多く、今後検討していかなければならないと思いました。

（委員長　鎌田幸也）